

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2375700669		
法人名	社会福祉法人瑞祥		
事業所名	グループホームオレンジ		
所在地	愛知県知多郡美浜町大字野間字新前田212-1		
自己評価作成日	平成24年9月25日	評価結果市町村受理日	平成24年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26番地 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成24年10月12日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

自然豊かな環境の中、住み慣れた地域で利用者一人ひとりの人格を尊重し安心してその人らしい生活を継続できるように努めています。また、加齢に伴う入居者の重度化(要介護5が2名・要介護3が3名)により、介護職の専門的知識や技術を高めることにより、手厚い介護サービスを提供することが必要とされており、そのニーズに応えることができるよう、職員の資格取得に対するサポートを行っています。その結果、介護福祉士資格取得者が職員8名の内5名となり、ヘルパー2級の資格取得者も合わせると、職員全員が資格を取得しています。また、認知症介護実践者研修等の施設外研修にも積極的に参加し、専門知識の向上に努めています。

また、積極的に地域へ出向き、地域の方とふれあう機会や法人で行う「オレンジふれあい夏祭り」「オレンジ餅つき大会」「オレンジ昭和村」には、家族や多数の地域住民が参加しふれあいの場となっています。隣接した病院や老人保健施設、併設している特別養護老人ホーム、ケアハウスなど施設サービス、ヘルパー、デイサービスなどもあり医療、保健、福祉の複合施設で連携も密に行え、退居後の相談においても選択肢が豊富で、迅速に対応できる体制が整えられており相談する機会が設けられています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

法人全体の理念でもある「感謝報恩」の基に利用者が高い品質のサービスを提供することを心がけている。そして職員は接遇が徹底しており礼儀正しい。月1回の栄養教室を始め週1回のレクリエーションを行っているが、利用者一人ひとりの要望に添った対応をしており、それが刺激となり、認知症の緩和となっている。利用者一人ひとりの要望や思いを汲み取り、ケアサービスに活かしている。家族には2ヶ月に1回、日常の様子を知らせる手書きの手紙を送付している。また、防災訓練に力をいれており、台風、地震、火災、津波などを想定して職員がスムーズに動けるように周知徹底している。法人全体で行う「オレンジ夏祭り」は、地域住民の1400名程の参加があり楽しみの一つとなっている。隣接している病院もあり、体調変化に対する対応も早く充実している。利用者のケアサービスや社員教育、地域との連携、家族との関係どれも一生懸命に取り組んでいるのが伺えるホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で、誇りや生きがいを持って暮らし続けることを重視した理念を掲示しており、職員は理念遂行のための役割を理解し、安心した生活を支える為、家族や地域住民の協力を得ている。	入社時に理念をじっくりと説明して周知徹底を図り3ヵ月後にまた研修を行い確認をしている。職員は理念に添ったケアサービスに努めると共に接遇や道德教育も浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地区祭礼や町主催の産業祭、文化祭作品展への出品等、積極的に参加した。法人主催の行事においては、1300名以上の地域住民、ボランティアとの触れ合いの場である夏祭りや、昭和村、オレンジ文化祭等、日常的に交流の機会が多い。	法人「瑞祥」は地域に周知されており、法人行事が地域の住民の一つの行事となっている。利用者は保育園、学区の運動会などに参加しており、地域行事にも地域の人との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出行事を通して地域へ出向き地元住民とふれあい、認知症の方について理解を深めたり、外部からの施設見学や近隣大学の実習生の受入れ等を積極的に行い、地域で支えあう重要性の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況や活動報告、感染症予防、防災関連の取り組み等報告している。また、利用者、町、住民代表者や家族の方々より意見、要望をうかがい、それらを元にサービスや職員の質の向上に努めている。	会議はパワーポイントを使用して、日常の様子を写真で見てもらっている。他に認知症症状について説明しており出席者から好評である。防災についてなど、出席者からは協力できることは協力したいとの声がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時に対応できるよう、日頃より行政担当者との電話連絡や直接出向くことで、報告、相談を通じた情報共有を行っている。また運営推進会議においても、日頃の業務運営に理解をいただき、協力体制が確立できている。	市町村担当者と常に連絡を取り合ったり、直接会うことで連携が取れている。今回の外部評価調査にも市町村担当者が出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会に参加し、昨年のスピーチロック排除に向けた取り組みに加え、薬剤と拘束の関連性を専門的に学び、職員の知識の向上に努めている。又、玄関の自動ドアは、日中は開放状態とし自由な生活を支援している。	身体拘束や高齢者虐待排除について社員教育が周知徹底しておりそれを実践している。2年前から毎月1回スピーチロックの排除週間を設け、職員間で注意しあっており、現在はスピーチロックは殆どみられない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人合同の身体拘束廃止委員会や研修会にて、虐待防止についての理解を高めることで防止に努めている。定例研修及び伝達研修において、虐待防止への適切な介護方法や対応方法などについて、職員間で周知徹底を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に本人・家族に制度に関するパンフレットなど提供し説明を行っている。必要性が生じた場合は、関係者との話し合える機会が持てる体制が出来ている。また職員の意識向上の為に研修会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に施設内を見学したり、ご利用者や家族の不安や疑問などに解り易く説明したりしている。利用者や家族からは、安心納得される同意が得られている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご家族からの意見、要望等もご意見箱や苦情相談記録票等より把握しサービスの向上、満足度アップに繋げている。利用者と職員は、日常的にコミュニケーションが図れており、気軽に話しやすい雰囲気づくりに努めている。	2ヶ月に1回家族に、利用者の日常の様子などを書いた手書きの手紙を送付しており家族から好評である。家族より要望も気軽に言えるという声もあり、家族との信頼関係が構築されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎週の全体会議や業務改善会議にて職員からの報告、相談、意見等について検討し、的確な指導や意見交換を行うことで、業務の改善に繋げている。	職員の意見や要望は上司に言い易い環境にある。要望や意見などを提案した場合は必ず返事がもらえる仕組みになっており、働き易い環境整備ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り職員の希望を踏まえ、規則に準じた配慮が出来ている。キャリアパスや介護職員処遇改善の導入を継続的に取り入れられている。また、衛生委員会にて職員が働きやすい環境への取り組みを実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の研修会、出張報告会等や外部からの講師による研修会に参加している。年に1度職員の力量評価を元に、年間の研修計画を立案したり、資格取得の為に、各専門職が関わり資格取得の体制が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に加盟しており、情報交換や共通の課題等について検討し、サービスの質の向上に努めている。又、連絡協議会で行う研修会にも参加し、交流の機会を持ちネットワークづくりに努めている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接や見学等をして頂き生活状況を把握したり、アセスメントより抱えている不安やニーズを抽出し、不安の解消に努めている。又、傾聴、コミュニケーションを通し、信頼関係の構築にも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の見学、面接時に家族等の要望や不安などを傾聴し、的確に聞きとりを行い不安の軽減が図れるよう、情報提供やサービス提案など行い、信頼関係の構築を図る事が出来るように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の状況把握を適切に行い、的確な情報提供を行っている。又、当法人の特性である医療、保健、福祉の複合体の活用提案や、他のサービス事業者との連携も図り、紹介出来る体制を整備している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は家庭的な雰囲気の中、掃除、洗濯等の家事仕事を共同で行ったり、余暇活動として月間カレンダー作り、手芸作品を協力してつくり上げ、喜びや達成感を共有できるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や利用者の気持ちを理解しながら、お互いに気にかけている情報を提供し、精神面の援助やふれ合う機会をつくっている。家族との絆を大切に、職員と家族で共に利用者を支え合う関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの場所である店舗、喫茶店、墓参りへの継続的な外出や、知人、友人が気軽に面会に来れる環境作りを行うことで、馴染みの関係が途切れることがないよう、従来の関係性に配慮した支援を行っている。	入居前からよく利用していた店に出かけたり、隣接する病院や介護施設に入所している知人に会うなど、日常的に馴染みの場所や人との関係継続を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る事、出来ない事を、お互いに補い合い認め合いながら、共同で生活している事を理解できるよう、職員が調整役となり支援している。又、連帯感を感じられる行事を計画し、親睦を深める機会をつくるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人やご家族が不安にならないように配慮し、病院や他施設に入院や入所された方でも、相談員やワーカー等との連携を図りながら、支援に努めご家族の安心に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどのような生活を望んでいるか、寄り添い、本人の言葉を傾聴し、また、家族からの情報収集を行うことで、本人の思いや希望、意向を把握できるように努めている。	本人の意思を尊重して、日頃の生活の中で役割分担など心がけている。伝えることが困難な人には普段の様子を見守り、できる限り希望に添えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前に、可能な限り在宅面接を行うことで生活歴や生活環境などを把握し、サービスが開始になっても、急激な環境の変化が起きないように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの暮らしや生活のリズム、個々の状態を把握し、申し送りや日誌等で職員間での周知をしている。心身状態やの個々の能力等を生活、心理面より感じ取り、全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン策定会議にて利用者、家族の意向希望を聞きとり、重度化しても利用者がより良く満足して暮らせるように、サービスの提供内容など、皆で検討し話し合いケアプランを作成している。	23年度の目標達成計画でケアプラン策定会議を通して利用者のニーズに基づき生きることを支援し、安定した生活を支えていくことを掲げ、今年度は個人記録やケース記録をより詳細に記録し、ケアプランにも反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の様子や身体状況の変化などを記録し、情報が職員間で共有出来ている。毎月モニタリング評価を行い、必要時にケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に応じて、病院受診の付き添い、リハビリ通院の送迎、介護保険申請の提出代行など柔軟な対応に心がけて、満足度の向上、サービスの質の向上に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある馴染みの場所や商店などとの繋がりを断ち切ることなく継続できるよう支援している。行事等で、近隣の店や地元の名所、入居者にとって馴染みがあり、思い出深い場所に出向き、生活を楽しむことが出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同敷地内に病院があり、受診・通院などは、本人と家族の要望に応じて迅速に行っている。受診時、診察に必要な情報を、主治医に伝え情報の共有が図られている。家族が付き添えなかった場合は、結果や様子を詳しく伝え、本人及び家族より安心が得られている。	利用者が希望する病院へ受診できるよう支援している。それぞれのかかりつけ医から情報提供票をもらい、又、受診に付き添った家族からも話を聞き、ホームの協力医に伝えることで連携体制はとれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の心身状況に変化があった場合は、隣接する病院の主治医に相談したり、併設施設の看護師に相談や状態確認をしてもらえる。受診の必要性の判断に迷う場合は、すぐに相談や指示が受けられるように体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による身体機能、認知能力の低下を防ぐために、入院前後における本人の状態や支援方法などの情報提供を行い、医療機関と連携を図っている。入院生活中においても、安心して頂けるように職員は定期的に面会し、家族とも病状など状況を、共有するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期に対する本人及び家族の意向を確認し、サービス計画に反映させるよう努めている。また、必要があれば地域の関連機関(併設の特養や隣接病院)との協力体制を整え、方針を共有し、重度化した際の支援体制を整えている。	介護度が上がって重度化してきた利用者は早い段階で本人の意向や家族とも話し合いを行なっている。職員の資格取得者が多くなったことや家族からの希望もあって、できる限りホームで見ていきたいと方針も変わってきている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、法人が開催している研修に参加し、実践している。夜間帯においては、緊急対応マニュアルに沿って対応しており、職員間で周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立ち合いを受けた防災訓練の際に、指導を受け、職員の防災意識の高揚を図っている。地震、火災、津波、台風等様々な災害を想定し、昼間・夜間想定による訓練を実施している。又、実際の台風時では土嚢を使用して浸水を防止した。運営推進会議に参加した地域住民との情報交換及び防災に関する協力体制を確認している。	年6回の災害訓練を行なっている。そのうち2回は消防署の立会いの下で行なっている。訓練内容は災害を台風や地震、火災、津波などと想定して実施している。訓練を定期的に行なうことで、職員の防災に対する意識レベルも高くなってきている。地区の人も数人参加してもらい、協力体制を構築している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室であるため、日常生活の中でプライバシーが守られている。個々の声掛けや対応においても、尊厳を重視し介護にあっている。又、利用者の個人情報に関しても外部の目に付かないように管理している。	月2回は身だしなみや言葉使いについての接遇を行なっており、職員は個人情報保護を念頭に置き、日常の介護に関わると共に利用者に接する際は優しくいたわる気持ちで接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でコミュニケーションを重視し、信頼関係の構築に努めながら関わり、要望等が話し合える環境にある。また、外出行事等では、常に話し合いながら、自己決定が出来るように援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活習慣や趣味等把握し、本人の要望に沿えるように話し合い、日々の生活に取り入れる環境づくりに努めている。また、職員は利用者の体調やペースに合わせながら、寄り添うケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の服選びを職員と共に、本人が決定出来るように関わり、身だしなみの大切さを感じてもらっている。外出時にも、場所や天候等に合せ、職員と共に服を選び、お洒落の喜びを感じてもらよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の残存能力や本人の嗜好に配慮した食事の準備や片付けを、利用者と職員が共に行い、家事に参加出来る喜びや達成感を味わっている。本人・家族からの聞き取りや嗜好調査等により、希望を把握し食事の楽しみに繋げている。	利用者は配膳や後片付け、食器洗いなど出来ることを手伝っている。嗜好調査を行ない、希望する食事を取り入れたり、なるべく旬の食材を使うよう心がけている。また、行事食も季節を味わってもらよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量を確認し、小まめな水分摂取により1日に必要な水分量の確保に努めている。本人の好みや習慣を大切に、重度化に対応して食形態を調節しながら、食べる意欲保持を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入れ歯の方、自歯の方に合せ、本人の能力に応じた、丁寧な磨き方の指導や介助を実施し確認している。就寝前の義歯に関しては、専用の洗浄剤にて消毒をし、清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄習慣を把握した上でトイレ誘導を行い声掛けや見守りなどで排泄の自立を図ったり、トイレでの排泄を継続できるように生活意欲の向上に努めることができるよう、ケアカンファレンスにて職員間での情報共有を図っている。仮に失敗があった場合も本人の尊厳やプライドに留意し対応している。	職員は利用者のそれぞれの排泄パターンを把握し、早めに声かけをしてトイレに誘導している。身体機能の回復に繋がるように、おむつ外しの自立に向けた支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則正しい生活習慣を継続し、食生活においては繊維質の多く含まれた野菜等で自然排便が出来るように努め、適度な運動や水分補給も確保出来ている。便秘予防では、牛乳など乳製品も活用し便秘予防にも努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の習慣や希望などに合わせ入浴を援助すると同時に、体調なども十分考慮した上で実施している。また入浴を快適に楽しんでもらえるように、お湯の温度等要望にも沿えるように、コミュニケーションを図りながら行っている。	利用者のその日の体調に合わせて入浴を行っている。利用者の希望に添って介護度の高い人も機械浴を使わず職員3人がかりで、入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や睡眠状況、体調等に合わせ、休んでもらえるように環境づくりに努めている。夜間は、状態を把握し安心して寝られるように、巡回の強化を実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の処方箋や、お薬手帳を活用し個々の状態の把握に努めている。個々に薬も預かり、飲み忘れや、飲み違い等が起こらないように管理している。服薬時は、利用者の能力に合せ服薬介助を援助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントやアンケート調査により、個々の楽しみを抽出し、要望に沿えるよう行事などをとり入れ気分転換や満足度向上に繋げている。また家事仕事での役割分担など決め生活の活性化を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の申し出により、近隣のドラッグストアにて買い物を楽しんだり、近隣の散歩に出かけたり等要望に沿えるように援助している。また要望があれば、職員が介入し、家族との外出が出来るように、連絡・調整を行う様にしている。	近隣のスーパーや馴染みのグリーンセンターへ買物ツアーに出かけている。なるべく利用者の希望に添った外出となるようにしている。近くの神社への散歩の際には家族にも車イスを押してもらい協力してもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力の下、個々に少額のお小遣いを管理し外出行事や買い物等に使用して、金銭感覚が養えるように援助している。所持金が少なくなり、本人が不安にならないよう家族に随時連絡し補充していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の日常的な思いや、行事参加の際の様子を取り入れた手紙を2ヶ月に1回家族に送り、本人の様子や思いを伝えている。その他希望がある際は随時電話、手紙の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度計を使い快適な環境で過ごせるように配慮している。椅子に座りのんびりと食事の支度や香りなどを楽しみ、生活感を感じる事ができている。またホールや玄関に作品や年月日がわかる手作りのカレンダー等を飾り、季節感を味わえるようにしている。	居間の中心にテーブル、イスを配置し、利用者からも職員からもお互いに顔が見えるよう配慮されている。窓際にソファを置きのんびりとできる空間もある。テーブルの中央に季節の花を生けたり、壁には季節を感じる壁飾りや利用者の作品を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は自由に自分の時間が過ごせるスペースが十分ある。また、気の合う利用者同士でホールに設置された長椅子で会話を楽しんだり、机を囲んで作品作りなどを行うことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や寝具などは馴染みの物を使って頂き、本人と家族が相談しながら配置にも工夫している。ひとりひとり個性のある居室となっており、居心地良く過ごせるように、家族の協力を得て、住み慣れた環境に近づけるように努めている。	昔から使っていた針箱やテーブルを持ち込んでいる人や好きな猫のぬいぐるみを置いている人もいる。部屋はそれぞれ居心地良く過ごせるように配置されている。新聞や雑誌を購読して、部屋で好きな時間を過ごす人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	何が分かりにくいのが、また本人がどのような事ができるのかを考え、身体状況に合わせて手すりの設置やスロープの設置、段差をなくすなど安全に安心して生活できるような環境を整えている。また部屋毎に色紙を飾ることで自分の部屋で、落ち着いた環境を持ち過ごしてもらえるよう配慮も行っている。状態が変わった際はその都度職員間で話し合い、不安を取り除けるように支援している		

### 外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2375700669
事業所名	グループホームオレンジ

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） グループホームオレンジを含め母体法人「瑞祥」が地域に根付いており、法人行事であるふれあい夏祭り、昭和村、餅つき大会は地域の行事の一つとなっている。また、野間海岸の清掃など地域に貢献している。地域の人から介護保険や福祉について相談を受ける事が増えて好評である。	評価 ○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 運営推進会議は、日常の様子や行事などパワーポイントを使用して分かりやすく説明している。出席者より感染症、防災などの取り組みに対して助言をもらったり、医療面での相談や助言もあり、参加者より認知症に対して理解が深まったとの声もある。	評価 ○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 日常的に役場に向かいしたり、電話で話すなど情報を共有している。また、月1回の地域ケア会議や、市町村の研修に参加などもしている。運営推進会議を含め今年度は外部評価調査当日にも参加してもらっている。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 昨年の当ホームの目標達成計画の一つであった、「利用者と家族との交流が希薄にならない様にする」は、面会時に利用者の日常の様子を説明したり、2ヶ月ごとに、日常の様子を書いた手紙を出すなどしている。また、母体法人の行事と一緒に参加して共に楽しんでもらえるように配慮して改善している。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	○	○	○	○		

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域とのつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。